

配信日 2006.3.7

春の兆しが見え始める 3 月ですね。春は様々なスポーツが幕を開けます。ソク訳通信第 3 号は、社員注目のスポーツ選手を挙げてみました。皆様の好きなスポーツを思いつつお楽しみ下さい！

このメールマガジンはソク訳とお取引のあるお客様、登録翻訳者、名刺交換をさせて頂いた方にお送りしています。今後ご不要の方は大変お手数ですがinfo@sokuyaku.comまでお知らせ頂けますようお願い致します。なお皆様の個人情報には弊社が責任をもって厳重に管理いたしております。

【もくじ】

2/3 日本電波工業株式会社様訪問レポート
2006 年 F1 開幕に向けて
今年注目のスポーツ選手

【2/3 日本電波工業株式会社様訪問レポート】

2 月 3 日、日本電波工業株式会社狭山事業所に、シュリットデイトリッヒが伺いました。日本電波工業様からは様々な翻訳ご依頼を頂いておりますが、狭山事業所の皆様からは特に品質保証管理に関する翻訳をご発注いただいております。今回訪問時には、水晶振動子に関する展示室を案内していただき、その仕組みや用途などをご説明いただきました。

まず驚いたのが、世界最大級の水晶。ブラジル産で高さ 1.8 メートル、直径は 3.4 メートル、重さは 3.6 トンにも及ぶそうです。



水晶の写真

水晶には圧力を加えると電荷を発生させる特性があります。その特性を生かして生活上のほとんどあらゆる製品、コンピューター、デジカメ、携帯電話などの電気製品はもとより、医療現場では超音波探触子という胎児の状態を安全にセンサーで確認する装置にも使用されています。実際にこれらの製品で使用される水

晶は米粒ほどの小ささで、薄さはなんと紙より薄い 10 ミクロン！日本電波工業では水晶の切断、研磨、加工機器まで開発しています。

実際に製造過程をご説明いただき、自分の目で確認することができて、具体的な品質管理のイメージがわかりました。この経験は関連文書翻訳の品質向上に必ず結びつくと思います。また、担当者の方々と直接じっくりお話することができ、お客様を取り巻く環境やニーズを掴むことができました。狭山事業所の皆様、お忙しい中、ありがとうございました！

(レポート; シュリットデイトリッヒ)

【日本電波工業 狭山工場 O主任技術員様からの御推薦文】

ソク訳殿とお付き合いが、始まってまもなくのこと、またまた至急のお願いをしましたところ、金子社長は孤軍奮闘なれど、日頃の無理が祟ったのか、風邪をこじらせ重症状態。無理をしないよう留守電に伝言を入れ、こちらも日付が変わる前に帰宅しようと準備をしているとどなたか分からない声の電話が有りました。高熱重症の変声期を迎えた金子社長からの電話でした。ありがたいのと命の(ちょっとオーバー)心配が重なり思わず電話に手を合わせました。

あまり無理をしすぎないようにこれからもよろしくお願いします。

【日本電波工業 本社 営業サービス本部 S主査様からの御推薦文】

当社は、ソク訳さんに社内のプレゼン用資料の英訳を定期的をお願いすることが多いのですが、当社内独特の言葉や言い回しについてはどのように英訳したか、ソク訳さんがキチッと履歴を管理して下さり、且つその一覧を定期的に送信して下さいます。それにより、翻訳者が代わる度に訳が異なるようなこともなく、良い仕事をして下さっていると思っております。

この様な、細やかな気配りをしてくださるので、ソク訳さんに継続して翻訳をお願いしています。

日本電波工業株式会社URL: <http://www.ndk.com/indexj.html>

【2006年F1開幕に向けて】

今週末3月10日、世界最高峰の自動車レースF1がバーレーンで開幕。

F1は1950年にモータースポーツの盛んなイギリスのシルバーストン・サーキットで始まり、今年で57年目を迎える。

F1はFormula One の略称であり、Formula Car とは 屋根がない、オープンホイールの車の総称である。日本ではFormula Nippon(俗にエフポンと呼ばれている)、ヨーロッパではイギリス、フランス、ドイツ(現在は統合されユーロシリーズとして開催)等に Formula Three というカテゴリーがあり、F1はその中のトップにあたる自動車レースである。カーブの多いサーキットを周回し、最高時速は300キロを超え、ドライバーの視界は10円玉程度と言われる。

そんな聞いただけでも危険なスポーツであるF1では、様々な最先端技術が使われている。

弊社のお客様でもある東レ株式会社様もこのF1に技術を提供している会社の一つである。

東レ社は世界最大の炭素繊維メーカーであり、パンパシフィックオープンといったテニスの大会を主催していることで有名である。

F1に関しては現在参戦している11チーム殆ど全てに東レ社の炭素繊維が採用されている。炭素繊維(カーボン)のメリットは、軽量、高剛性であり、安全性に優れている面である。時速200Km以上でクラッシュしたドライバーがかすり傷一つなかったことでその安全性が広く知れ渡り、F1界で急速に広まった。以前は

軽量という事でアルミなどが使われていたが、ボディー、シャシー(ドライバーが乗る風呂桶のような部分)、ウイング(空気の力で車を地面に押さえつける前後の羽根のような部分)など全面的に炭素繊維が使われるようになったのは、1981年からである。現在のF1には規則で使用が禁じられているエンジンを除いては全てのパーツに使われていると言っても過言でない。また、車両のみならず、車を作るための”型”や、ドライバーの被るヘルメット、事故の時に首を守る”HANS”という防具にも炭素繊維が使われている。



“HANS”

この伝統的、また世界一危険なスポーツ(と私は思っている、なにセレーサーの力だけではどうしようもないことがよく起こる)F1に今年から新しいチームSUPER AGURI FORMULA1(SAF1)が参戦する。このチームはなんとF1界では初の純日本製プライベートチーム(個人がオーナーを務める)となる。チームオーナーは1988年から1995年までF1で活躍した鈴木亜久里。ドライバーは2002年F1デビューを果たした佐藤琢磨(カーナンバー22)、昨年までF1ニッポンで活躍していた井出有治(カーナンバー23)のペア。ホンダV8エンジンを搭載し、タイヤはブリジストン、ボディー、シャシーはSAオリジナル。まさに純日本チームなのである。昨年9月、急遽2006年からの参戦を表明し、今年1月後半に参戦が承認されバーレーンのグリッドに着けることが確定した。新しいチームで、且つ準備期間が短かったこともあり、今シーズンは結果を残すことが難しいかもしれない。しかし、これからは成長するのみである。

車がグルグル回っているのをみて何が面白いのか、という意見も良く分かります(実際私もテレビ観戦していて寝てしまうことも。。。)。ですが、今年はホンダ、トヨタ、に加えSAF1が参戦します。オリンピックの後はF1でジャパンパワーを応援してみませんか？

(by 森本)

(写真・情報提供:東レ株式会社)

【東レ株式会社 担当者様からのご推薦文】

依頼内容:取引先との契約書、納入仕様書の翻訳

依頼して良かった点:当社扱い製品は、所謂ハイテク素材であるため、販売活動においても技術、製造部署との連携が欠かせません。技術的な専門用語も多いのですが、短納期にて翻訳をしていただき、お陰で技術との意思統一が図れました。フランス語・スペイン語なども対応できるとのことなので、今後も又お願いしたいと思います。

東レ社URL: <http://www.toray.co.jp/>

【今年注目のスポーツ選手】

金子 …エレナ・デメンティエワ: テニス、現在世界ランク7位

今年の東レパンパシフィックで優勝した24歳のロシアの看板娘。復活したヒンギスをものともせず、得意のストロークで6-2、6-0と圧勝! 180センチの長身を生かしてサーブをさらに改良したら、グランドスラ

ム優勝も夢ではないと思う。 <http://news.tennis365.net/news/tour/players/details/?id=women00010>
笑顔がかわいい MARIA・キリレンコ(ロシア)にも期待

森本 ……佐藤琢磨: F1レーサー、今年SAF1から参戦
19歳からカートを始め、20歳で単身イギリスへ渡り自動車レース歴僅か5年でF1レーサーとなった。有言実行で道を切り開いてきた、彼のアグレッシブな走りは見る人を魅了する。
<http://sports.yahoo.co.jp/f1/2006/teams/agu/22.html>
<http://sports.yahoo.co.jp/f1/2006/teams/agu/>

シュリットデイトリッヒ ……高原直泰: サッカー選手
ご存知ドイツハンブルガーSV所属のFW。2005-2006年シーズン前半は出場機会に恵まれず、移籍を志願したが、ドル監督がリーグ戦後半は出場機会を増やすとし、残留することとなった。ブンデスリーガシーズン後半は始まったばかり。W杯も含め、今年の彼の活躍に乞うご期待!

佐藤 ……原辰徳: プロ野球監督
選手ではありませんが、今年巨人監督に返り咲いた「ジャイアンツ愛」の原監督に大注目! 選手時代のプレーに一目ぼれして、はや15年。原ファンは未だに健在です!(注目しているというより単なるファン…)

【編集後記】

ソク訳通信3号目、初めて森本が編集を担当しました。普段の業務にはないことをするのも面白いものですね。ソク訳通信が皆様の業務の息抜きになればと思います。そしてF1(SAF1)ファンが増えればと願う今日この頃です。

メルマガバックナンバーはこちら

http://www.sokuyaku.com/mail_magazine/index.htm

発行元:ソク訳

サイト: <http://sokuyaku.com>